

# 「Radiology of the Pancreas」

by Patrick C. Freeny and Thomas L. Lawson

慶応義塾大学放射線診断部

平 松 京 一

シアトルのメイスンクリニック放射線科 Freeny 助教授と、ミルウォーキーのウィスコンシン医科大学放射線科 Lawson 教授の共著になる「Radiology of the Pancreas」がこのたび Springer-Verlag より出版された。

近年多くの画像診断が発達し、各種臓器の形態診断は今やほぼ完成されたものとなりつつあるなかで、膵疾患、特に膵腫瘍に関する画像診断には依然として多くの障害が残されている。特に膵癌の早期発見に関し

ては、すべての画像診断技術を駆使しても、その検出能にはかなり限界が存在することは確かである。本書はこのような厳しい状況下にある膵画像診断の限界に対するチャレンジとも言えるべき、これら診断法をすべて網羅した textbook である。

第1章は検査手技に関するもので、CT、超音波診断、血管造影、膵胆管系ならびに十二指腸の検査手技が詳細に書かれており、それぞれの項目に必要な解剖が記載されている。第2章は各疾患についての画像

診断所見を etiology ならびに pathology を含めて述べた各論である。これには先天性異常、急性ならびに慢性膵炎、各種腫瘍などが含まれており、一部には治療や生存率などについても言及されている点が特色であろう。全体でカラー写真10枚を含む1,268図が掲載されており、非常にわかりやすいシェーマと鮮明な写真の画質には敬意を表したい。新しい検査法がふんだんに取り入れられているばかりでなく、文献についても最近の新しいものまで豊富に引用されている。膵の放射線診断に関して、ここまで詳細に論じた著書は見当たらない。

624 pp. 1268 figs. incl. 10 color plates  
1982 ¥ 47,680  
Springer-Verlag, Berlin

日本総代理店 医学書院洋書部